

今回は春日居町寺本地区を紹介  
します。寺本の地名は地区内にあ  
る古代寺院に由来しています。

寺本廃寺は今から約1300年  
前に造られた山梨県最古の寺院で  
す。大きさは130m四方の正方  
形で、建物の配置方法は法起寺式  
です。

寺本廃寺ではこれまで3回の発  
掘調査が行われており、塔、金堂、  
講堂等の建物跡を確認しています。  
塔は仏舍利等を納めた建物です。  
平面規模は一辺5・4mで、心柱  
を支えていた礎石が残されていま  
す。金堂は仏像等を安置した建物  
です。平面規模は南北10m×12m、  
東西18m以上と考えられています。  
講堂は仏教行事を行う建物です。  
雨落溝と礎石の下に置く根石が確  
認され、平面規模は22m×18mで  
す。

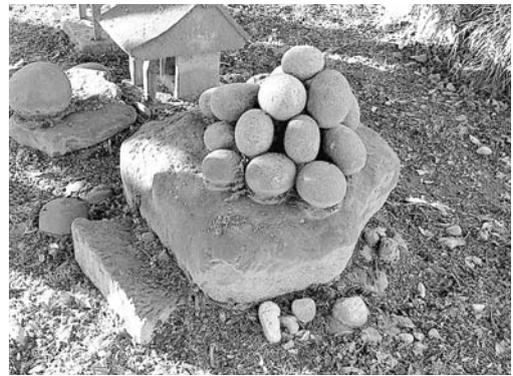
さらに発掘調査中には布目瓦・  
墨書土器・塑像仏像の破片等の貴  
重な資料が出土しました。それら  
は寺本地区にある春日居郷土館や  
御坂町成田地区にある山梨県立博  
物館で公開しています。

また寺本廃寺周辺からはカマド  
の煙道部分に布目瓦を利用してい

# 訪 探 市 吹 笛

シリーズ 第11回

## 春日居町寺本地区



丸石道祖神の台に転用されている礎石(山王神社)

る平安時代後期の住居址が見つか  
っています。それらの布目瓦は寺  
本廃寺の建物の屋根に使われてい  
ました。そのため平安時代後期に  
は寺はすたれたと思われるです。

その後、寺本廃寺跡には田畑や  
住居等が造られるようになります。  
1712年には講堂跡の北側に山  
王神社が造られます。神社の拝殿  
前には礎石が置かれています。ま  
た神社北側にある丸石道祖神の台  
には礎石が使われています。また  
寺本廃寺の南築地跡(塀の跡)は  
道路として残っています。南築地  
跡の東側には寺本地区の道祖神場  
があり、礎石が2個置かれていま  
す。

これらの礎石は寺本廃寺の何  
れかの建物の柱を支えていたと  
思われます。寺のすたれた後に  
礎石を掘り出し、利用したので  
しょう。



転用されている礎石(山王神社拝殿前)

さらに、寺本公民館敷地内には  
木造地藏菩薩立像がまつられてい  
ます。この仏像は木食白道により  
1800年前後に造られました。  
もとは寺本山高雲寺にまつられて  
いました。現在は寺本地区の人た  
ちにより毎年3月27日にお祭りが  
行われています。

笛吹市教育委員会 社会教育課



寺本道祖神場(礎石)



寺本地蔵菩薩立像